

2 年	通 年	生物基礎	履修形態	全員履修
			履修単位	2
			教科書	183第一生基319： 高等学校 改訂 新生物基礎
			副教材等	なし
			履修条件	特になし
科目目標				
生物や生命現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育むとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容				
生物の多様性と共通性、遺伝子やタンパク質の構造と働きなどを学び、体内の環境を維持するためのしくみや生体防御のしくみを理解する。また、環境による植生の違いや生態系についても学習する。				
評価方法		定期考査・出席状況・授業態度・提出物を総合的に判断して評価する。		
学習上の留意点		教科書、ノートとプリントを中心に進める。欠席しないように気をつけること。		

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	
前 期	4	第1章 生物の特徴	・生物の特徴を知り、生物の体をつくる細胞の共通性と多様性について学ぶ。 ・生物体内で酵素がどのように関係しているかを学ぶ。	
	5	第1節 生物にみられる多様性と共通性		
	6	第2節 細胞とエネルギー	・エネルギーの取り出しや利用などから、細胞のはたらきを探る。	
	7	第2章 遺伝子とそのはたらき	・遺伝子の本体であるDNAについて学ぶ。 ・体細胞分裂の過程において、遺伝子がどのように分配されるかを理解する。 ・タンパク質は、DNAの遺伝情報に従って合成され、体内でさまざまな働きを担っていることを理解する。	
	9	第1節 遺伝子とDNA 第2節 遺伝子の働き		
後 期	10	第3章 体内環境と恒常性	・さまざまな生活環境の中で生きる生物体内の環境が、ある程度一定に保たれるしくみを学ぶ。 ・体内環境の変動に応じて、脳から神経、血液を通して精巧に調節されるしくみを理解する。 ・免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。	
	11	第1節 生物の内部環境 第2節 体内環境を維持するしくみ		
	12	第3節 生体防御		
	1	第4章 植生の多様性と生態系	・光環境の違いによって生育する植物に違いがあること、植生は不変ではなく、長期的には移り変わっていることを学習する。 ・バイオームの概念を理解する。 ・生態系におけるエネルギーの流れや物質循環、自然界のバランスについて学習する。	
	2	第1節 植生と遷移 第2節 気候とバイオーム		
	3	第3節 生態系と物質循環 第4節 生態系のバランスと保全		

学習評価の観点別規準と評価方法			
評価の観点	知識および技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	生物や生命現象について、基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、調査・実験・観察の技能を習得し、それらを適切に利用することができる。	生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、それらを科学的に考察・分析し、導き出した考えを表現できる。	身近な生物や生命現象と、日常生活や社会を関連づけ、主体的に関わり、それらを探求しようとする科学的態度を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述

学習サポート			
全員必履修2単位の科目です。細胞や代謝、臓器、免疫などについて学習します。自分自身の身体についての授業なので、自分自身の健康や成長を意識できると、授業を楽しめると思います。考査の成績だけでなく、普段の授業態度や提出物も成績に含めますので、日頃から積極的な姿勢で授業を受けてください。			